

文章が黙読時のインナーボイスに及ぼす影響

山尾 理沙子

本研究は読み手がフォントや背景デザイン、形式や内容が異なる文章を黙読した場合、インナーボイスにどのような影響を及ぼすのか明らかにすることを目的とする。また、読み手の習慣や経験が内声化の多寡やインナーボイスの変化に影響があるのか検討する。黙読をする際、頭の中で音読している読み手は多い。このように頭の中で音読する活動を内声化と呼び、それに伴う音声イメージをインナーボイスと呼ぶ。インナーボイスが変化することは先行研究によってわかっているが、何が原因でどのように変化するのかはわかっていない。

被験者実験により検証した。文章は理解が容易ではないと想定される文章を説明形式にした文章と会話形式にした文章、絵本、国民的アニメのセリフを文字起こした文章、その人物の名前を隠した同じ内容の文章、取扱説明書、設定が似ている人物が複数登場する小説、古い言葉遣いが用いられた小説、ポジティブな内容の文章とネガティブな内容の文章をそれぞれ明朝体、ゴシック体、隷書体、手書き風のフォントで示したもの、ポジティブな内容の文章とネガティブな内容の文章をそれぞれポジティブな印象を与える背景デザインと、ネガティブな印象を与える背景デザインで示したもの、大阪弁、京都弁、名古屋弁、博多弁、広島弁、津軽弁で書かれた文章、フォントの色やモデルの性別が異なるファッション雑誌を用いた。内声化している場合はインナーボイスの性別、高さ、年齢、大きさ、落ち着き、迫力、聞きなれているかで評価してもらった。

文章によってインナーボイスの評価に差が生じているか優位水準5%として項目ごとに検定した。説明形式と会話形式では高さ、年齢、落ち着き、聞きなれている声に有意差が出た。絵本と2つの小説の地の文では性別と高さに有意差が出た。老若男女の登場人物では性別、年齢、高さ、大きさ、落ち着き、迫力に有意差が出た。方言の会話文では性別、年齢、高さ、大きさ、落ち着き、迫力に有意差が出た。同一の内容で、異なる背景デザインの文章では高さ、年齢、落ち着き、迫力に有意差が出た。雑誌ではモデルの性別によってインナーボイスに性別、年齢に有意差が出た。同一の内容で異なるフォントの文章では年齢、大きさ、落ち着き、聞きなれている声に有意差が出た。

以上を踏まえ、文章の登場人物の身体的属性、方言によってインナーボイスの年齢、性別、高さ、大きさ、落ち着き、迫力が、作品によって地の文のインナーボイスの高さ、性別が、雑誌のモデルの容姿によってインナーボイスの性別、年齢が、説明形式か会話形式かによってインナーボイスの高さ、年齢、落ち着き、聞きなれているかが、背景から受ける印象によってインナーボイスの高さ、年齢、落ち着き、迫力が、フォントの違いによってインナーボイスの年齢、大きさ、落ち着き、聞きなれているかが変化することがわかった。

(指導教員 真栄城哲也)